

海外からの手紙 ～アザーンで始まる朝～

マレーシア クアラルンプール日本人学校 校長 神田 哲

(下関市立王司小学校)

毎朝、朝食後5時30分過ぎから歯磨きをします。歯磨きをしているバスルームの窓の外から大音量の「アザーン」が聞こえてきます。「さあ、今日も始まるぞ！」という気持ちになります。私の1日もアザーンから始まります。

ここマレーシアはイスラム教徒の国です。アザーンとはモスクから流れる礼拝(サラート)への呼びかけのことで、キリスト教での鐘のような役割をしています。違うのは肉声です。毎朝、聞こえてきますが、テープや録音ではないそうです。よく聞くと確かに声質や言い回し、抑揚が日によって違います。2年住んでいると聞き分けられるようになりました。イスラム教の国を旅した小説には「モスクから流れるコーラン」とよく書いてありますが、流れているのはコーラン(イスラム教の聖典)ではありません。アザーンの意味を学校スタッフに聞くと、簡単に言えば「アッラーは偉大なり。お祈り(サラート)へ来なさい。成功のためです。寝ている場合ではありません。」だそうです。



マレーシアの人々は全員がイスラム教徒ではありません。約70%のマレー系の人々はイスラム教徒です。約20%の



中国系の人々は仏教あるいはキリスト教を信仰しています。約10%のインド系の人々はヒンズー教を信仰しています。モスクと道を隔てて仏教寺院があったり、その隣にはヒンズー教寺院があったり、キリスト教会があったりします。それぞれの寺院にはそれぞれ独自の装飾がされています。



公用語はマレー語ですが、英語は公用語と同様に通じますし、中国語、タミール語も聞こえてきます。中華系学校に訪問に行くと授業では標準中国語の普通語です。町中の店では耳にするのはほとんど広東語です。クアラルンプール日本人学校のスタッフにはマレー系、中国系、インド系の人々がいます。朝のあいさつも「グッドモーニング」「スラマパギ(マレー語)」「ジョーサン(広東語)」「おはようございます。」とスタッフによって使い分けます。



イスラム教徒は豚肉、アルコールを食することはありません。スーパーはハラル(イスラム教徒が食べることができる食品)です。ビールととんかつ、チャーシューが大好きな私はマレーシアの生活は苦しいようですが、全く違います。ノンハラル(イスラム教徒が食してはいけない食品)コーナーがスーパーの隅にあります。そこに入るとビールもワインもウイスキーも日本酒も売っています。豚

肉も豚肉入りのウインナーも売っています。マレー系レストランのマレー料理はハラールです。インド系レストランのインド料理はナンやロティ、米とカレーです。中華レストランでは豚肉入りの小籠包を食べながらビールを飲むことができます。それぞれの民族料理ですから、どれもおいしくいただいています。



マレーシアには正月が4回あります。全て祝日です。1月1日の「ニューイヤー」、イスラム教の新年「ハリラヤ」、中華系の新年「旧正月：チャイニーズニューイヤー」、ヒンズー教の新年「ディパバリ」です。どの宗教の方でも全て祝日です。新年の前には4回のバーゲンがあります。新年はどの民族もどの宗教も互いに認め合い、平等です。



私は毎月学校だよりを日本のお世話になった方へメール送信しています。昨年5月にそのメールの本文に書いた文章です。

『本校は25台の通学バスで幼小中園児児童生徒約800名が登下校しています。校内はオールJAPANの各都道府県から派遣された個性豊かな3、40歳台の文部科学省派遣教員、再任用のシニア派遣教員、大卒3年未満の学校採用の若手教員です。校外の生活は、マレー系、中華系、インド系の人々がともに暮らし、イスラム教のモスクの隣に仏教寺院、ヒンズー寺院、キリスト教会があり、英語とマレー語、中国語が行き交う多民族国家を身近に感じる毎日です。毎日が刺激的で、積極性・協調性・柔軟性が日々鍛えられています。』



マレーシアは多民族国家です。そして、民族による宗教、言語、文化、習慣等を互いに認め合い、尊重し合っています。見事に融合し、調和しています。民族を越えてコミュニケーションを取るためには英語が多用されます。英語力を測るTOEFLスコアのアジア30カ国の国別ランキングはシンガポーツに次いでマレーシアは2位だそうです。日本は27位です。マレー語、英語のみならず、中華系マレーシア人は中国語、インド系マレーシア人はタミール語とトリリングガルです。加えて日本語、フランス語、韓国語とマルチリングガルの方も珍しくありません

マレーシアで生活し国際性を強く意識するようになりました。日本ではグローバル人材の育成が求められています。グローバル人材には3つの要素があげられます。

- 1 語学力、コミュニケーション能力
- 2 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- 3 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

クアラルンプール日本人学校に着任して2年、この3つの要素を常に肌で感じながら生活している自分に気がつきます。グローバル人材、国際性には、ネイティブのような語学力やコミュニケーション能力、交渉力や場慣れした立ち振る舞い等が必要であるとされがちです。しかし、他者に対する尊敬の念や相手の立場に立った共感、思いやりや温かい心にこそ、国際性の本質があるのではないかと思います。そして、日本人としての「礼儀」「時間を守る」「チームワーク・協調性」「おもてなし」「もったいない」は急速な速度でグローバル化していく社会の中で生きるために必要な資質だと感じています。

今朝もアザーンを聞きながら歯を磨き、今日一日が始まりました。